


表-6.12.2(4) 代表的な注目種の生理・生態・生活史 (その2)

視点	注目種	生理・生態・生活史
典型性 	リュウキュウスガモ	オモダカ目トチカガミ科。海産種子植物。 奄美大島以南に分布。 内湾から外洋まで生息範囲は広く、琉球列島ではベニアマモやリュウキュウアマモ等の海草類と混生。 開花・結実期は7、8月を除く周年。 写真はカラ岳東沿岸の被度50%の場所であるが、ボウバアマモ、リュウキュウアマモとともに混生している。
	アオサンゴ 	共莢目アオサンゴ科。 小笠原及び琉球列島以南に広く分布。水深10m以浅の波が静かな礁池や礁縁付近に生息。 群体の外形は半球形で樹枝状・葉状・板状・円柱状など様々な形の枝からなり、単一または、多数が複合して巨大群体を形成。 礁縁部では背丈が低く、コンパクトな群体が多。 白保では10mを超える群落が発達。
	ユビエダハマサンゴ 	イシサンゴ目ハマサンゴ科。 四国以南に分布。礁池内からリーフ外縁の浅い所に生息。琉球列島サンゴ礁域の普通種。 群体は樹枝状。時として礁池等では直径数mを超える半球状の群体を形成。 オニヒトデはあまり好まない。 白保では比較的全域で群落がみられる。

出典1：西平守孝, J. E. N. Veron(1995) 日本の造礁サンゴ類. 海遊社. 439pp.

2：西村三郎 (1992) 原色検索日本海岸動物図鑑 I. 保育社. 425pp.

3：当真武(1999) 琉球列島の海草-I. 種類と分布. 沖縄生物学会誌. 37,75-91.

4：横地洋之 (2002) 琉球列島の海草群落. 日本におけるサンゴ礁研究 I. 21-27.